

問題 55 本支店合併財務諸表

(株)関西は、大阪に本店、京都に支店を置き、商品売買業を営んでいる(当期X2年4月1日～X3年3月31日)。次の資料をもとに以下の各問に答えなさい。

資料1

本支店残高試算表
X3年3月31日

(単位:円)

借方	本店	支店	貸方	本店	支店
現金預金	94,050	11,810	買掛金	54,000	18,000
売掛金	72,000	21,000	貸倒引当金	1,050	210
繰越商品	63,500	※36,650	繰延内部利益	()	-
建物	120,000	50,000	減価償却累計額	40,500	11,250
土地	500,000	()	借入金	65,000	20,000
支店	45,500	-	資本金	()	-
仕入	654,000	291,250	繰越利益剰余金	120,000	-
本店仕入	-	()	本店	-	()
販売費	13,400	6,200	売上	()	()
支払利息	2,500	300	支店売上	53,550	-
	()	()		()	()

※このうち 13,650円は本店仕入分である。

資料2 未達取引

1. 本店から支店に送付した商品 9,450円(振替価格)が支店に未達である。
2. 支店は、本店の販売費 500円を小切手を振り出して支払っていたが、本店に未達であった。
3. 本店から支店に送金した 1,200円が支店に未達である。

資料3 決算整理事項等

1. 本店は支店に商品を送付するさい、原価の5%増を振替価格とし(毎期一定)、支店以外に商品を販売するさいには原価の20%増を売価としている。支店は、原価の25%増を売価としている(ただし、本店からの仕入分については、振替価格を原価とする)。
2. 期末商品棚卸高(未達商品を除く)
 - (1) 本店 58,000円(帳簿棚卸高) 57,000円(実地棚卸高)
 - (2) 支店 38,000円(うち本店仕入分 15,750円)棚卸減耗はなかった。
3. 一般債権につき、2%の貸倒引当金を設定する(差額補充法)。
なお、上記の売掛金はすべて一般債権である。
4. 減価償却
 - (1) 本店 建物:取得原価 120,000円、耐用年数40年、残存価額10%、定額法
 - (2) 支店 建物:取得原価 50,000円、耐用年数30年、残存価額10%、定額法

問1. 支店勘定 円 支店売上勘定 円

本店勘定 円 本店仕入勘定 円

問2. ①現金預金 円 ②商品 円

③借入金 円 ④資本金 円

⑤土地 円

問3.

本支店合併損益計算書

自X2年4月1日 至X3年3月31日 (単位:円)

I 売上高	()	
II 売上原価		
1. 期首商品棚卸高	()	
2. 当期商品仕入高	()	
計	()	
3. 期末商品棚卸高	()	()
売上総利益		()
III 販売費及び一般管理費		
1. 販売費	()	
2. 棚卸減耗費	()	
3. 貸倒引当金繰入	()	
4. 建物減価償却費	()	()
営業利益		()
IV 営業外費用		
1. 支払利息	()	
税引前当期純利益	()	
法人税等	()	
当期純利益	()	()

5. 借入金

(1) 本店 年利率 4% 借入期間 X1年4月1日より5年間、利払日9月末と3月末の年2回

(2) 支店 年利率 3% 借入期間 X1年10月1日より3年間、利払日9月末の年1回
 なお、残高試算表上の支払利息は、すべて当該借入金に関するものである。

6. 税引前当期純利益に対して50%の法人税等を計上する。なお、税効果会計は適用しない。

問1. 未達整理後における支店勘定・支店売上勘定および本店勘定・本店仕入勘定の金額を示しなさい。

問2. 合併貸借対照表上の次の各金額を示しなさい。

①現金預金 ②商品 ③借入金 ④資本金 ⑤土地

問3. 合併損益計算書を作成しなさい。

問題 56 決算手続と帳簿の締切

(株) KANTO は、東京に本店、横浜に支店を置き、商品売買業を営んでいる(当期X2年4月1日～X3年3月31日)。次の資料をもとに以下の各問に答えなさい。なお、未達取引はない。

資料 1

決算整理前残高試算表

X3年3月31日

(単位: 円)

借方	本店	支店	貸方	本店	支店
現金預金	28,540	6,530	買掛金	15,000	8,500
売掛金	21,000	14,000	貸倒引当金	380	170
繰越商品	11,000	5,570	繰延内部利益	()	-
有価証券	()	()	減価償却累計額	12,600	6,750
備品	70,000	20,000	本店	-	32,060
投資有価証券	()	-	資本金	170,000	-
支店	32,060	-	繰越利益剰余金	2,000	-
仕入	46,600	14,190	売上	52,000	42,000
本店仕入	-	22,050	支店売上	()	-
販売費	13,200	2,560	受取配当金	7,200	-
			有価証券売却益	-	420
	()	()		()	()

問題 56

問1.

支店損益

繰越商品	()	売上	()
仕入	()	繰越商品	()
本店仕入	()	有価証券売却益	()
販売費	()	有価証券評価益	()
貸倒引当金繰入	()		
減価償却費	()		
[]	()		
	()		()

問2. 本店勘定 円 支店勘定 円

問3.

総合損益

[]	()	本店損益	()
法人税等	()	支店	()
繰越利益剰余金	()	[]	()
	()		()

■資料2 ■ 決算整理事項等

1. 本店の期末商品棚卸高は 9,000円(帳簿)、8,900円(実地)、支店の期末商品棚卸高は 6,810円(うち本店仕入分 2,310円)である。支店の期首商品棚卸高のうち本店仕入分は 3,570円であり、当期の本店仕入高は本店の仕入原価で 21,000円である。

本店は支店に商品を送付する際、原価の5%増を内部振替価格としている(毎期一定)。

2. 一般債権につき、2%の貸倒引当金を設定する(差額補充法)。

なお、上記の売掛金はすべて一般債権である。

3. 本店が所有する有価証券の内訳は次のとおりであり、部分純資産直入法を採用する。なお、当該有価証券はすべて当期中に取得したものである。

銘柄	所有目的	取得原価	当期末時価
A社株式	売買目的	24,000円	20,000円
B社株式	売買目的	18,000円	18,200円
C社株式	その他	17,000円	16,000円

4. 支店が所有する有価証券(当期取得)の内訳は次のとおりである。

銘柄	所有目的	数量	取得原価	当期末時価
D社株式	売買目的	80株	@62.5円	@63円

5. 減価償却(備品)

① 本店 取得原価 70,000円 耐用年数15年 残存価額10% 定額法

② 支店 取得原価 20,000円 耐用年数20年 残存価額10% 定額法

6. 税引前当期純利益に対して、50%の法人税等を計上する。なお、税効果会計は適用しない。

問1. 支店損益勘定の空欄を埋めなさい。

問2. 次期に繰越すべき本店勘定、支店勘定の金額を答えなさい。

問3. 総合損益勘定の空欄を埋め、完成させなさい。

問題 57 在外支店の円建財務諸表の作成手順

次の資料により、在外支店の円貨額による(1)貸借対照表および(2)損益計算書を完成させなさい。

■資料1 ■ 在外支店の決算整理後残高試算表

決算整理後残高試算表			
X2年3月31日 (単位:ドル)			
現金預金	1,500	買掛金	4,700
売掛金	2,500	長期借入金	4,450
繰越商品	3,000	減価償却累計額	450
備品	4,500	本店	600
仕入	14,000	売上	18,000
減価償却費	450		
その他の費用	2,250		
	<u>28,200</u>		<u>28,200</u>

■資料2 ■

1. 当期の売上原価は、期首商品 4,000ドル（前期の期中平均為替レートにより換算）、当期仕入高13,000ドル、期末商品 3,000ドルにより計算されている。
2. 本店勘定はすべて本店からの送金額である。
3. 備品は当期首に取得したものである。取得原価は 4,500ドル(取得時のレート 1ドル135円)、残存価額10%、耐用年数9年で減価償却を行う。
4. 換算に必要な 1ドル当たりのレートは次のとおりである。

長期借入金発生時為替レート	125円	期中平均為替レート(当期)	124円
		期中平均為替レート(前期)	124円
本店から送金時為替レート	120円	期末為替レート	123円

問題 57

(1)

支店貸借対照表 (単位:円)

現金預金	()	買掛金	()
売掛金	()	長期借入金	()
商品	()	減価償却累計額	()
備品	()	本店	()
	()	当期純利益	()
	()		()

(2)

支店損益計算書 (単位:円)

期首商品棚卸高	()	売上高	()
当期商品仕入高	()	期末商品棚卸高	()
減価償却費	()	為替差益	()
その他の費用	()		
当期純利益	()		
	()		()

解答

問1.	支店勘定	45,000	円	支店売上勘定	53,550	円
	本店勘定	45,000	円	本店仕入勘定	53,550	円
問2.	①現金預金	107,060	円 ⁰¹⁾	②商品	103,250	円 ⁰²⁾
	③借入金	85,000	円	④資本金	500,000	円
	⑤土地	540,000	円			

問3.

本支店合併損益計算書
自X2年4月1日 至X3年3月31日 (単位:円)

I 売上高	(1,147,700) ⁰³⁾
II 売上原価	
1. 期首商品棚卸高	(99,500) ⁰⁴⁾
2. 当期商品仕入高	(945,250) ⁰⁵⁾
計	(1,044,750)
3. 期末商品棚卸高	(104,250) ⁰⁶⁾
売上総利益	(940,500)
III 販売費及び一般管理費	
1. 販売費	(20,100)
2. 棚卸減耗費	(1,000)
3. 貸倒引当金繰入	(600)
4. 建物減価償却費	(4,200)
営業利益	(181,300)
IV 営業外費用	
1. 支払利息	(3,200)
税引前当期純利益	(178,100)
法人税等	(89,050)
当期純利益	(89,050)

01) 本店 94,050 円
+ 支店 11,810 円
+ 未達 1,200 円
= 107,060 円

02) 本店実地棚卸高 57,000 円
+ 支店外部仕入分 22,250 円
+ 支店本店仕入分 (15,750 円
+ 未達 9,450 円) - 繰延内
部利益 1,200 円
= 103,250 円
繰延内部利益の計算
(15,750 円 + 未達 9,450 円)
× $\frac{0.05}{1.05}$ = 1,200 円

03) 本店 730,200 円
+ 支店 417,500 円
= 1,147,700 円

04) $13,650 \text{ 円} \times \frac{0.05}{1.05}$
= 650 円
本店 63,500 円 + 支店
36,650 円
- 繰延内部利益 650 円
= 99,500 円

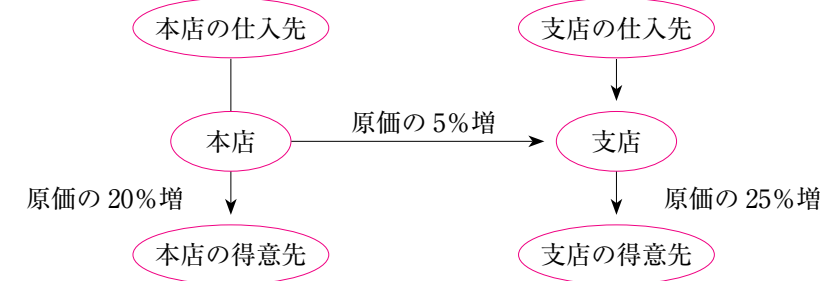
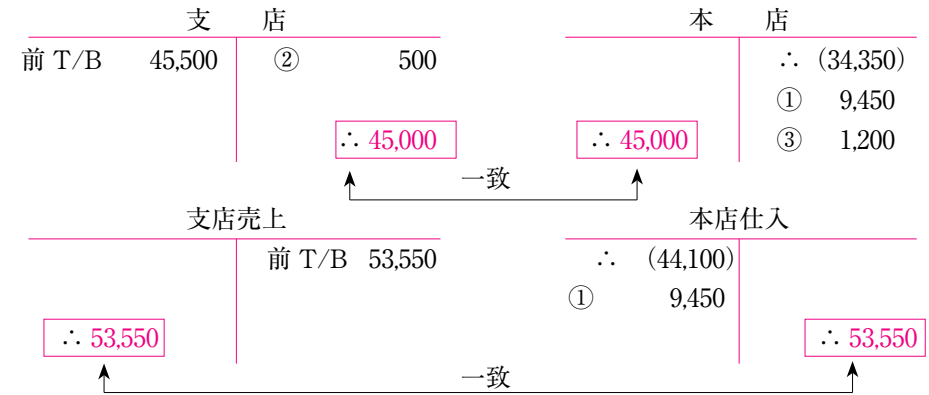
05) 本店外部仕入高 654,000 円
+ 支店外部仕入高 291,250 円
= 945,250 円

06) 本店 58,000 円
+ 支店 (38,000 円 + 未達
9,450 円)
- 内部利益控除 1,200 円
= 104,250 円

解説

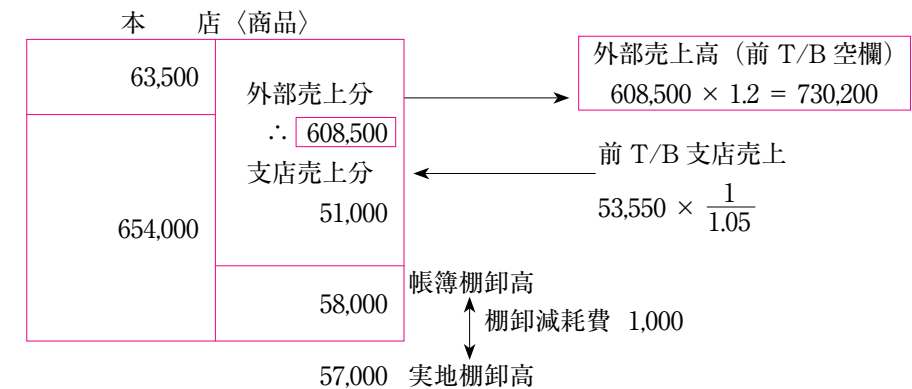
問1. 未達事項の仕訳

① 支店 (本店仕入)	9,450	(本店)	9,450
② 本店 (販売費)	500	(支店)	500
③ 支店 (現金預金)	1,200	(本店)	1,200



問3. 合併損益計算書の作成

1. 売上高



支店〈商品〉本店仕入分		外部売上高 (前 T/B 空欄)
13,650	∴ 42,000 ⁰⁷⁾	
本店仕入高		42,000 × 1.25 = 52,500
53,550	15,750	
	未達 9,450	
支店〈商品〉外部仕入分		外部売上高 (前 T/B 空欄)
23,000	∴ 292,000	
外部仕入高		292,000 × 1.25 = 365,000
291,250	22,250	417,500

07) 支店は振替価格を原価としているので、42,000円を売上原価と考えます。

解答

問1.

支店 損益	
繰越商品	(5,570) ⁰¹⁾
仕入	(14,190)
本店仕入	(22,050)
販売費	(2,560)
貸倒引当金繰入	(110) ⁰²⁾
減価償却費	(900) ⁰³⁾
[本店]	(3,890)
	(49,270)
売上	(42,000)
繰越商品	(6,810) ⁰⁴⁾
有価証券売却益	(420)
有価証券評価益	(40) ⁰⁵⁾
	(49,270)

- 01) 期首商品棚卸高
- 02) 14,000円 × 2% - 170円 = 110円
- 03) 20,000円 × 0.9 ÷ 20年 = 900円
- 04) 期末商品棚卸高
- 05) (63円 - 625円) × 80株 = 40円
- 06) 32,060円 + 3,890円 = 35,950円

問2. 本店勘定 35,950円⁰⁶⁾ 支店勘定 35,950円⁰⁶⁾

問3.

総合損益	
[内部利益控除]	(110) ⁰⁷⁾
法人税等	(7,130)
繰越利益剰余金	(7,130)
	(14,370)
本店損益	(10,310)
支店	(3,890)
[内部利益戻入]	(170) ⁰⁸⁾
	(14,370)

- 07) 支店の期末商品棚卸高のうち、本店仕入分
2,310円 × $\frac{0.05}{1.05}$ = 110円
- 08) 支店の期首商品棚卸高のうち本店仕入分
3,570円 × $\frac{0.05}{1.05}$ = 170円

2. 販売費

本店: 13,400円 + $\frac{500円}{未達分}$ = 13,900円

支店: 6,200円
20,100円

3. 棚卸減耗費

本店: 58,000円 - 57,000円 = 1,000円

4. 貸倒引当金繰入

本店: 72,000円 × 2% - 1,050円 = 390円
支店: 21,000円 × 2% - 210円 = 210円
600円

5. 建物減価償却費

本店: 120,000円 × 0.9 ÷ 40年 = 2,700円
支店: 50,000円 × 0.9 ÷ 30年 = 1,500円
4,200円

6. 支払利息

本店: 65,000円 × 4% = 2,600円
支店: 20,000円 × 3% = 600円
3,200円

〈決算整理仕訳〉

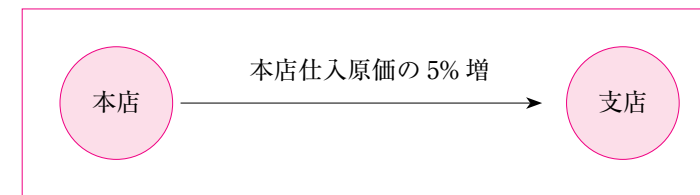
本店 (支払利息)	100 (未払金) ⁰⁸⁾	100
支店 (支払利息)	300 (未払利息)	300

08) 決算日と利払日が一致しているため未払金となります。

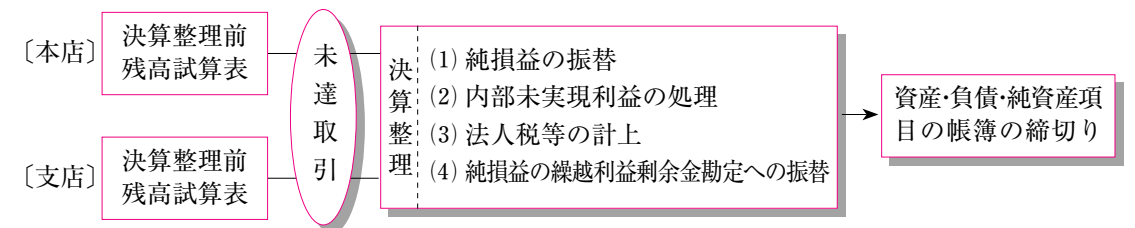
7. 法人税等

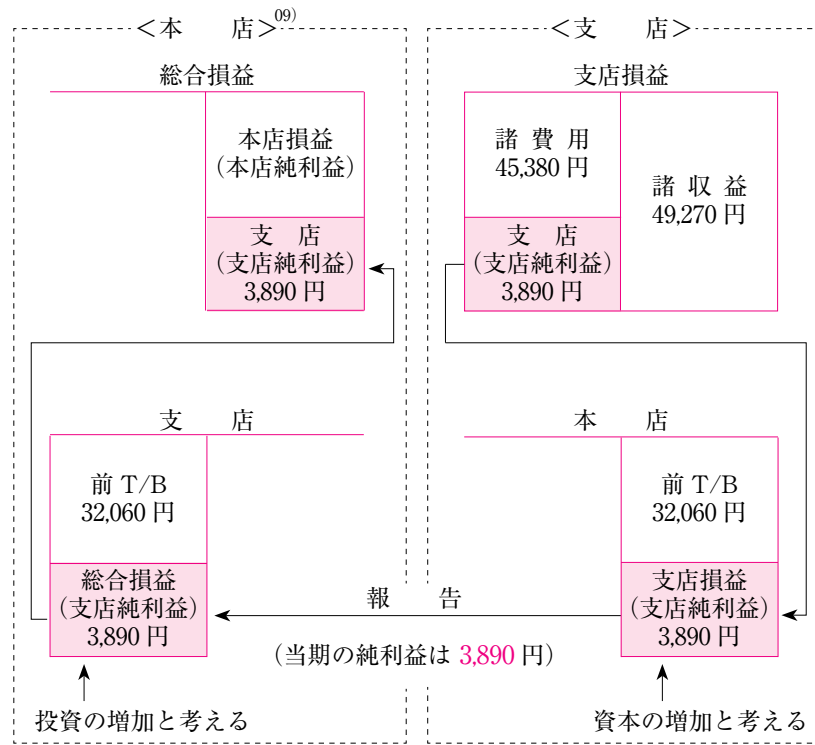
$\frac{178,100円}{税引前当期純利益} \times 50\% = 89,050円$

解説



帳簿を締切るまでの流れは以下のとおりです。本問では、決算整理(1)純損益の振替がポイントとなっています。





本店損益勘定は次のとおりです。

本店損益		支店損益	
繰越商品	11,000 ¹⁰⁾	売上	52,000
仕入	46,600	支店売上	22,050
棚卸減耗費	100 ¹¹⁾	繰越商品	9,000 ¹⁶⁾
販売費	13,200	受取配当金	7,200
貸倒引当金繰入	40 ¹²⁾		
減価償却費	4,200 ¹³⁾		
有価証券評価損	3,800 ¹⁴⁾		
投資有価証券評価損	1,000 ¹⁵⁾		
総合損益	10,310		
	<u>90,250</u>		<u>90,250</u>

- 10) 期首商品棚卸高
 11) 9,000円 - 8,900円 = 100円
 12) 21,000円 × 2% - 380円 = 40円
 13) 70,000円 × 0.9 ÷ 15年 = 4,200円
 14) A社株式
 20,000円 - 24,000円 = △4,000円 (評価損)
 B社株式
 18,200円 - 18,000円 = 200円 (評価益)
 15) C社株式
 16,000円 - 17,000円 = △1,000円 (評価損)
 16) 期末商品棚卸高 (帳簿)

(参考) 本支店合併損益計算書

本支店合併損益計算書
 自X2年4月1日 至X3年3月31日 (単位:円)

I. 売上高		94,000
II. 売上原価		
1. 期首商品棚卸高	16,400	
2. 当期商品仕入高	60,790	
計	77,190	
3. 期末商品棚卸高	15,700	61,490
売上総利益		32,510
III. 販売費及び一般管理費		
1. 販売費	15,760	
2. 棚卸減耗費	100	
3. 貸倒引当金繰入	150	
4. 減価償却費	5,100	21,110
営業利益		11,400
IV. 営業外収益		
1. 受取配当金	7,200	
2. 有価証券売却益	420	7,620
V. 営業外費用		
1. 有価証券評価損	3,760	
2. 投資有価証券評価損	1,000	4,760
税引前当期純利益		14,260
法人税等		7,130
当期純利益		<u>7,130</u>

解答

(1) 支店貸借対照表 (単位：円)

現金預金 (184,500)	買掛金 (578,100)
売掛金 (307,500)	長期借入金 (547,350)
商品 (372,000)	減価償却累計額 (60,750)
備品 (607,500)	本店 (72,000)
	当期純利益 (213,300) ⁰¹⁾
<u>(1,471,500)</u>	<u>(1,471,500)</u>

01) 当期純利益は B/S 上で貸借差額により計算します。

(2) 支店損益計算書 (単位：円)

期首商品棚卸高 (496,000)	売上高 (2,232,000)
当期商品仕入高 (1,612,000)	期末商品棚卸高 (372,000)
減価償却費 (60,750)	為替差益 (57,050) ⁰²⁾
その他の費用 (279,000)	
当期純利益 (213,300)	
<u>(2,661,050)</u>	<u>(2,661,050)</u>

02) 為替差益は P/L 上で貸借差額により計算します。

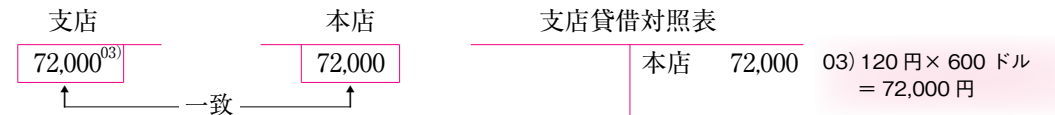
解説

1. 貸借対照表項目の換算

資産、負債をそれぞれ適用される為替レートで換算します(本店勘定を除く)。

資産	為替レート		負債	為替レート	
現金預金	123	(184,500)	買掛金	123	(578,100)
売掛金	123	(307,500)	長期借入金	123	(547,350)
繰越商品	124	(372,000)	減価償却累計額	135	(60,750)
備品	135	(607,500)	本店	—	(72,000)

2. 本店勘定の金額は、本店における支店勘定の金額と一致します。そこで本店における支店勘定を、支店における本店勘定の円換算額とします。



3. 当期純利益の計算

貸借対照表において、当期純利益(損失)を貸借差額で求めます。

4. 損益計算書項目の換算

費用、収益をそれぞれ適用される為替レートで換算します(為替差益を除く)。

費用	為替レート		収益	為替レート	
期首商品棚卸高	124	(496,000)	売上	124	(2,232,000)
当期商品仕入高	124	(1,612,000)	期末商品棚卸高	124	(372,000)
減価償却費	135	(60,750)	為替差益	—	(57,050)
その他の費用	124	(279,000)			
当期純利益	—	(213,300)			

なお、当期純利益は貸借対照表より移記します。

5. 為替差益の計算

損益計算書において、為替差益(損)を貸借差額で求めます。